

茨城県教育財団文化財調査報告第466集

笠 間 市

橋 爪 遺 跡

一般県道平友部停車場線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和 5 年 1 月

茨城県水戸土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第466集

かさ 間 市
笠

はし づめ
橋 爪 遺 跡

一般県道平友部停車場線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和 5 年 1 月

茨城県水戸土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理作業を実施することを主な目的として、昭和 52 年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県水戸土木事務所による一般県道平友部停車場線道路改良事業に伴って実施した、笠間市橋爪遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代の竪穴建物跡や奈良・平安時代の竪穴建物跡などが確認でき、当該時代の土地利用の様相が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県水戸土木事務所に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、笠間市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和 5 年 1 月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 小泉元伸

例 言

- 1 本書は、茨城県水戸土木事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が令和3年度に調査を実施した、茨城県笠間市橋爪911-5番地ほかに所在する橋爪遺跡^{はしづめ}の調査報告書である。
- 2 調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 令和3年9月1日～10月31日
整理 令和4年4月1日～5月31日
- 3 調査は、調査課長酒井雄一のもと、首席調査員兼班長埜厚宜、首席調査員坂本勝彦、調査員近江屋成陽が担当した。
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長本橋弘巳のもと、嘱託調査員野田良直が担当した。
- 5 当遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 38,000 \text{ m}$ 、 $Y = + 42,000 \text{ m}$ の交点を基準点（I A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系（測地成果 2011）による基準点である。

この基準点を基に県遺跡地図（2022）に基づく遺跡範囲全てを包括するように東西・南北 400 m 四方の大調査区に分割し、この大調査区を東西・南北各々 10 等分し、40 m 四方の中調査区を設定した。さらに、この中調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称はローマ数字を用い、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・・・と呼称し、中調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C・・・、西から東へ 1、2、3・・・とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c・・・j、西から東へ 1、2、3、・・・0 と小文字を付し、名称は、大調査区・中調査区の名称を冠して「I A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧等で使用した記号は次のとおりである。

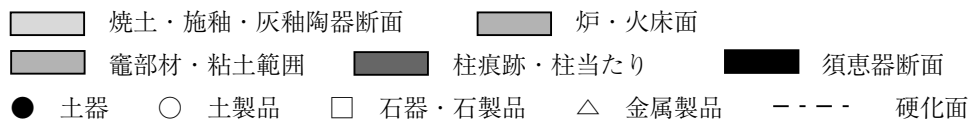




遺構 P - ピット SF - 道路跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 300 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・施釉・灰釉陶器断面  炉・火床面
 竈部材・粘土範囲  柱痕跡・柱当たり  須恵器断面
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 - - - - 硬化面

- 4 土層解説と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム - ロームブロック 焼土 - 焼土ブロック 粘土 - 粘土ブロック
多量・強い…A 中量・普通…B 少量・弱い…C 微量…D 極めて…○
サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。
粘 - 粘性 締 - 締まり
A - 強い B - 普通 C - 弱い

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、挿表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

- 7 整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは、以下のとおりである。

変更 SI 1 P 3 → SK 5 SK 4 → P 1 SK 5 → P 2 SK 6 → P 3 SK 7 → P 4 SK 8 → SK 4

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 位置と地形	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 縄文時代の遺構と遺物	10
竪穴建物跡	10
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	12
竪穴建物跡	12
3 鎌倉時代の遺構と遺物	15
道路跡	15
4 その他の時代の遺構と遺物	17
(1) 土 坑	17
(2) ピット	17
(3) 遺構外出土遺物	18
第4節 総 括	19
写真図版	PL1～PL4
抄 録	

挿 図 目 次

第1図	橋爪遺跡周辺遺跡分布図	4	第10図	第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図	14
第2図	橋爪遺跡調査区設定図	6	第11図	第1号道路跡出土遺物実測図	15
第3図	橋爪遺跡遺構全体図(1)	7	第12図	第1号道路跡実測図	16
第4図	橋爪遺跡遺構全体図(2)	8	第13図	土坑およびピット実測図	17
第5図	基本土層図	9	第14図	遺構外出土遺物実測図	18
第6図	第1号竪穴建物跡実測図	10	第15図	橋爪遺跡調査位置図	19
第7図	第1号竪穴建物跡出土遺物実測図	11			
第8図	第2号竪穴建物跡実測図	12			
第9図	第2号竪穴建物跡出土遺物実測図	13			

挿 表 目 次

第1表	橋爪遺跡周辺遺跡一覧	5	第6表	奈良・平安時代竪穴建物跡遺物一覧	15
第2表	第1号竪穴建物跡ピット一覧	12	第7表	第1号道路跡出土遺物一覧	15
第3表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧	12	第8表	土坑一覧	17
第4表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧	13	第9表	ピット一覧	18
第5表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧	15	第10表	遺構外出土遺物一覧	18

写真図版目次

PL 1	調査全景 A区(西方向から) 第1号道路跡確認状況 B-1区 調査全景 C-2区(西方向から) 調査全景 D区(東方向から) 第1号竪穴建物跡 遺物出土状況 第1号竪穴建物跡 炉 第1号竪穴建物跡 第1号竪穴建物跡 柱穴(P1)	PL 2	第2号竪穴建物跡 遺物出土状況 第2号竪穴建物跡 第3号竪穴建物跡 遺物出土状況 第3号竪穴建物跡 竈遺物出土状況 第1号道路跡 遺物出土状況(1) 第1号道路跡 遺物出土状況(2) 第1号道路跡掘方 B区 第1号道路跡掘方 C-1区東	PL 3	第1・2・3号竪穴建物跡出土土器
		PL 4	第1・2・3号竪穴建物跡出土遺物、第1号道路跡出土遺物、遺構外出土遺物		

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成28年12月7日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに一般県道平友部停車場線道路改良事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成28年12月15日に現地踏査を、令和元年9月3日、令和2年12月22日、令和3年1月18日に試掘調査を実施して、橋爪遺跡の所在を確認した。令和元年9月11日、令和3年2月15日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、事業地内に橋爪遺跡が存在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和3年3月16日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。令和3年4月12日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するように通知した。

令和3年5月11日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般県道平友部停車場線道路改良事業に係る埋蔵文化財調査の実施についての協議書を提出した。令和3年5月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、橋爪遺跡の調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県水戸土木事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、令和3年9月1日から10月31日まで調査を実施した。

第2節 調査経過

橋爪遺跡の調査は、令和3年9月1日から10月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	
	9月	10月
調査準備 遺構土除 表土確認	■	
遺構調査	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■
補足調査 撤収		■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

橋爪遺跡は、茨城県笠間市橋爪911-5番地ほかに所在している。

笠間市は、茨城県の中央部に位置し、北西部は栃木県、西部は桜川市、東部は水戸市や茨城町、南部は石岡市や小美玉市に隣接している。笠間市の北東部には、八溝山地から南西方向に張り出す鶏足山塊からのびる標高100～200mの丘陵（友部丘陵）が広がっている。丘陵は友部層と呼ばれる更新世の海成砂礫層と、その上層の関東ローム層によって形成されている。また、中央部から南東部の台地は、標高30～40mの東茨城台地の一部をなしており、基盤となる第三紀層は見和層上層部と呼ばれ、砂・礫・粘土層によって構成されている¹⁾。涸沼川は、国見山付近に水源を持ち枝折川や涸沼前川と合流し、涸沼に注いでいる。

当遺跡は、涸沼川左岸の標高32～42mに立地しており、涸沼川からの比高差は7～17mを測る。調査前の現況は畑地と宅地である。

第2節 歴史的環境

ここでは、笠間市域のうち、橋爪遺跡〈①〉の所在する旧友部町域にしぼって、『茨城県遺跡地図』に登録されている当該地域の主な遺跡を時代ごとに概観する²⁾。

涸沼川と北東部の涸沼前川に挟まれた台地は、旧石器時代から人々の営みの痕跡が認められている。当遺跡から南西へ8～11kmほど離れた涸沼川右岸に立地する東平遺跡〈57〉、古峯A遺跡〈55〉、古峯B遺跡³⁾〈54〉、今回の調査地点から南東へ30mほど離れた寺山遺跡⁴⁾と石山神遺跡⁵⁾〈10〉ではナイフ形石器や尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は、涸沼川流域をはじめ涸沼前川、枝折川の沿岸及び周辺の小河川の洪積台地に多く分布している。前期の遺跡では黒浜式土器が出土した石山神遺跡、中期では下宿遺跡や住吉遺跡が確認され、後者からは加曾利EⅠ式や阿玉台式、勝坂式の土器片が採集されている。中期から後期へかけての遺跡として確認されているものとして、橋爪遺跡⁶⁻⁷⁾、花咲遺跡〈2〉、南小泉遺跡、完全寺後遺跡⁸⁾〈11〉、東平遺跡⁹⁾、小原香取・坂場遺跡¹⁰⁾〈19〉がある。後期の遺跡では堀之内式土器片が出土した善九郎遺跡〈52〉、安行2式土器が出土した上郷遺跡¹¹⁾〈25〉がある。

弥生時代の遺跡は、涸沼川と涸沼前川に面する台地の縁辺部に立地している弥生時代後期後半の十王台式期が中心で、完全寺後遺跡¹²⁾やおおさわ遺跡¹³⁾〈23〉をはじめ、久保塚群や向原遺跡、三本松遺跡において竪穴建物跡が確認されている¹⁴⁾。近年、涸沼川流域では十王台式土器と下稲吉式土器、二軒屋式土器、樽式土器などが共伴して出土しており、他地域との交流が認められる。

古墳時代の遺跡は、集落が台地の縁辺部に、古墳はそれに加えて、台地のやや奥まった地域にも認められるようになる。大沢遺跡の北西側に位置する諏訪山古墳〈7〉は、全長62.4mの前方後円墳で、粘土槨から鉄剣一振が出土している¹⁵⁾。善九郎遺跡からは当該時代の土器片が発見されている。寺山遺跡南側の涸沼川を挟んだ対岸の「土師」地区は、土師器製作にかかわったとされる土師一族が居住した地と考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は、茨城と那賀の両郡にまたがっており、旧町域東部は那賀郡、西部は茨城郡に編入されていたと推定される¹⁶⁾。当遺跡より3km程北東部に位置する北平遺跡¹⁷⁾〈18〉や東平遺跡¹⁸⁾などで竪穴建物跡が確認されているが、調査事例をみる限り、古墳時代から継続する集落はほとんど見られず、奈良・平安時代になって新たに形成されたものが多い。

中世には、総領家の小田氏と常陸守護職を継承しあう宍戸氏が当地を支配している。鎌倉時代の守護所を含め、宍戸氏の居館は特定されていないが、町内に宍戸氏と関連する寺社が多く存在することから、秋田氏居住

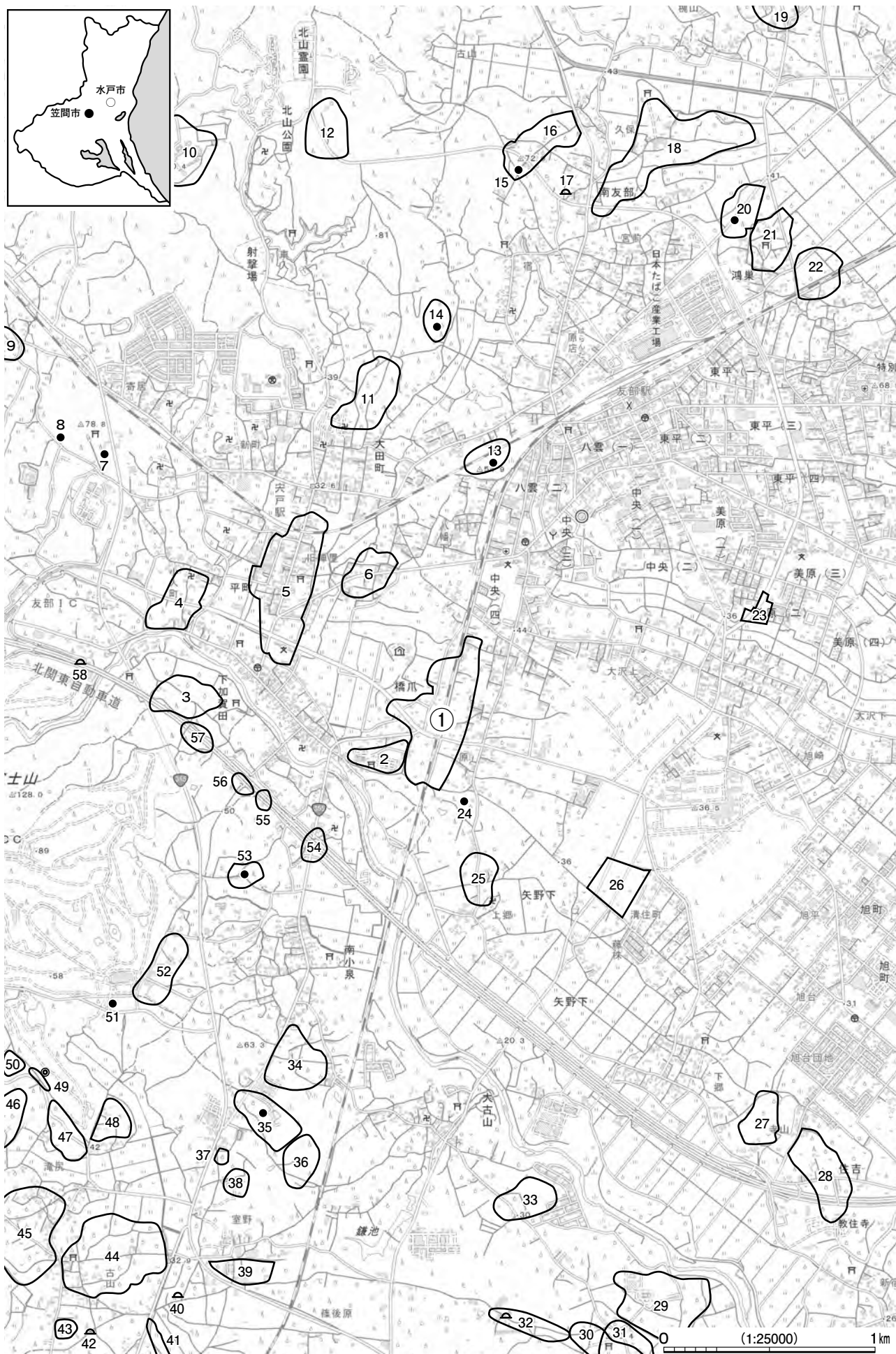
の宍戸城跡〈5〉¹⁹⁾ やその東隣に立地する古館〈6〉^{ふるだて}に、その地を比定しても不自然ではない。本領である「小鶴荘」（現茨城町）の荘名と「宍戸」の名字が一致しておらず、「宍戸」の地名が全く存在してない点はよく指摘されるところである。しかし、14世紀前半には「宍戸荘」という呼び方が確実に存在していることや、「宍戸」を広域地名と見る考え方も示されていることから、宍戸地区を本拠地とみるのが妥当と思われる。その後、戦国期においては佐竹氏麾下の将として命脈を保った宍戸氏は、文禄4(1595)年に佐竹氏の命により真壁郡海老ヶ島城へ移転することになった。旧領は佐竹氏一族や家臣が分知することになり、宍戸氏の菩提寺として鎌倉時代に建立された新善光寺²⁰⁾は、この配置替えに伴って海老ヶ島城内へ移転し、現在に至っている。

近世になると、佐竹氏の秋田移封と入れ替わるようにして、秋田氏が宍戸城に入城し5万石を領した²¹⁾。正保2(1645)年に秋田氏の陸奥三春への国替えに伴い、領地が幕府の直轄地に編入されると、宍戸城は破却され、武家屋敷も取り壊されてその大部分が水田となった。天和2(1682)年には松平氏を藩主として、再び宍戸藩が成立するが、わずか1万石の小大名であることや定府制をとることなどから、城下町としての規模は前代に比して著しく縮小しており、水田化された武家屋敷が再び城下に組み込まれることはなかった。

文中の()内の番号は、第1図及び第1表の当該番号と同じである。

註

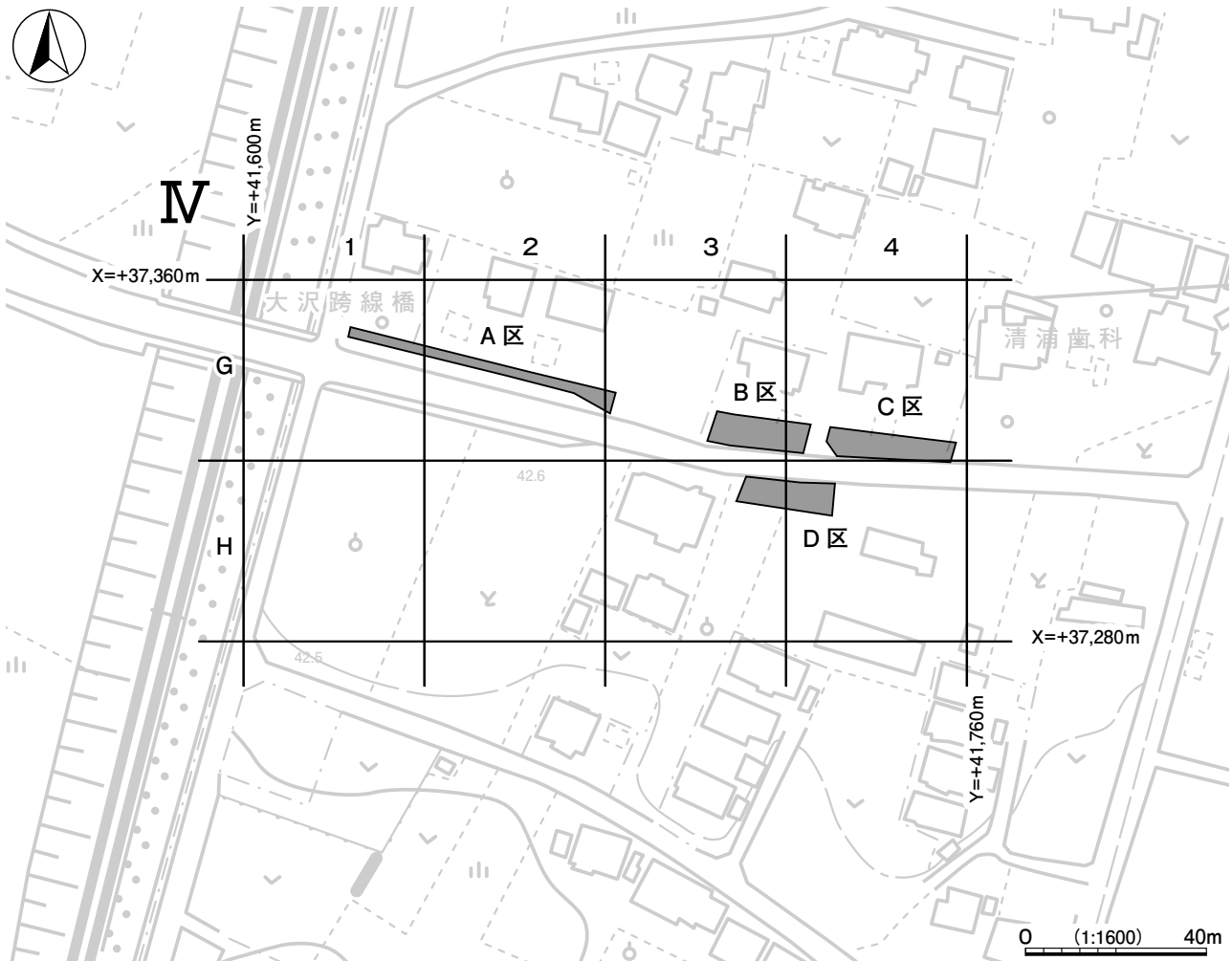
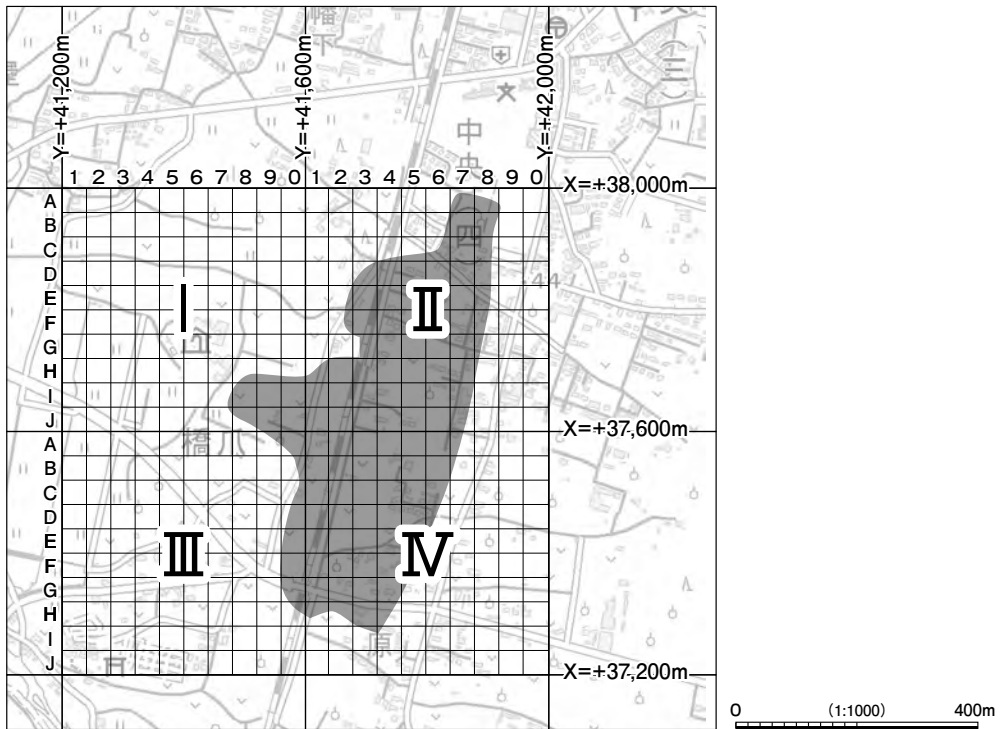
- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 2007年5月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2022年3月
- 3) 平松孝志『古峯A遺跡 古峯B遺跡 高土台塚群 北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』茨城県教育財団文化財調査報告第168集 2000年3月
- 4) 平松孝志『寺山遺跡 東平遺跡 坂ノ上塚群 北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』茨城県教育財団文化財調査報告第150集 1999年3月
- 5) 友部町史編さん委員会『友部町史』1990年3月
- 6) テイケイトレード株式会社『橋爪遺跡』笠間市教育委員会 2010年9月
- 7) 西茨城郡友部町教育委員会『橋爪遺跡A地点(原遺跡)』友部町埋蔵文化財調査報告 1994年4月
- 8) 有限会社 日考研茨城『茨城県笠間市 完全寺後遺跡 墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』笠間市教育委員会 2019年10月
- 9) 岩間町教育委員会『東平遺跡発掘調査報告書 推定安候駅家跡』岩間町教育委員会 2001年3月
- 10) 千種重樹 水谷正 飯島栄子 田村みどり『茨城県友部町 小原香取・坂場遺跡』友部町小原香取・坂場遺跡発掘調査会 1994年11月
- 11) 上郷遺跡発掘調査会『上郷遺跡発掘調査報告書』友部町教育委員会 1998年3月
- 12) 註8に同じ
- 13) 前島直人『大沢遺跡 都市計画道路宿大沢線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第344集 2011年3月
- 14) 長岡正雄 中村浩一郎『総合流通センター整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 中丸遺跡 久保塚群 五万掘古道 向原遺跡 向原塚群 前原塚 中丸塚』茨城県教育財団文化財調査報告第162集 2000年3月
- 15) 諏訪山古墳発掘調査会『諏訪山古墳』茨城県西茨城郡友部町諏訪山古墳発掘調査会 1980年3月
- 16) 註6に同じ
- 17) 能島清光 山口憲一 高橋孝之『茨城県西茨城郡友部町 北平遺跡発掘調査報告書』友部町北平遺跡発掘調査会 2004年3月
- 18) 註9に同じ
- 19) 前島直人『宍戸城跡2 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』茨城県教育財団文化財調査報告 第342集 2011年3月
- 20) 稲田義弘『新善光寺跡 宍戸城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第256集 2006年3月
- 21) 大越直樹 塩澤佑介 谷匂 鈴木徹『茨城県笠間市宍戸城跡 道改良工事に伴う発掘調査報告書』笠間市教育委員会 有限会社勾玉工房 Mogi 2011年6月



第1図 橋爪遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の1「笠間」)

第1表 橋爪遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山	江戸
①	橋爪遺跡		○	○		○	○		30	前ノ内遺跡				○	○	○	○
2	花咲遺跡		○						31	高おかみ神社古墳群				○			
3	下加賀田遺跡		○		○		○		32	土師十三塚						○	○
4	新善光寺跡						○	○	33	大古山遺跡		○		○	○	○	
5	宍戸城跡						○	○	34	南小泉遺跡		○		○	○		
6	古館						○		35	佐藤林古墳群					○		
7	諏訪山古墳				○				36	佐藤氏館跡						○	
8	諏訪山塚群							○	37	室野北遺跡				○	○	○	○
9	八反山遺跡		○			○			38	室野東遺跡		○		○	○	○	○
10	石山神遺跡	○	○						39	室野南遺跡			○	○	○	○	○
11	完全寺後遺跡		○	○	○	○	○	○	40	室野塚							○
12	北山遺跡		○					○	41	裏原遺跡				○	○	○	○
13	二ツ塚古墳				○				42	古山塚						○	○
14	猿丸塚古墳群				○				43	古山南遺跡				○	○	○	○
15	大塚古墳				○			○	44	五霊原遺跡				○	○	○	○
16	久保遺跡		○			○			45	古山塚		○				○	○
17	丹後塚古墳				○			○	46	滝尻西遺跡				○	○	○	○
18	北平遺跡	○	○			○			47	滝尻遺跡				○	○	○	○
19	小原香取・坂場遺跡		○			○	○		48	下菅谷遺跡				○	○		○
20	掃部塚古墳群				○				49	滝尻土塁						○	○
21	家前遺跡		○	○	○				50	滝尻北遺跡		○					
22	田端内遺跡		○	○	○				51	善九郎古墳群				○			
23	大沢遺跡			○					52	善九郎遺跡		○		○			
24	宝蔵古墳				○				53	富士山古墳群				○			
25	上郷遺跡		○		○		○	○	54	古峯B遺跡	○	○	○	○	○	○	○
26	平町原遺跡					○	○		55	古峯A遺跡	○	○	○	○	○	○	○
27	川郷地池遺跡		○			○			56	坂の上塚群				○			○
28	寺山遺跡	○	○		○				57	東平遺跡	○	○	○	○	○		
29	島屋敷遺跡				○	○	○		58	高土台塚群							○

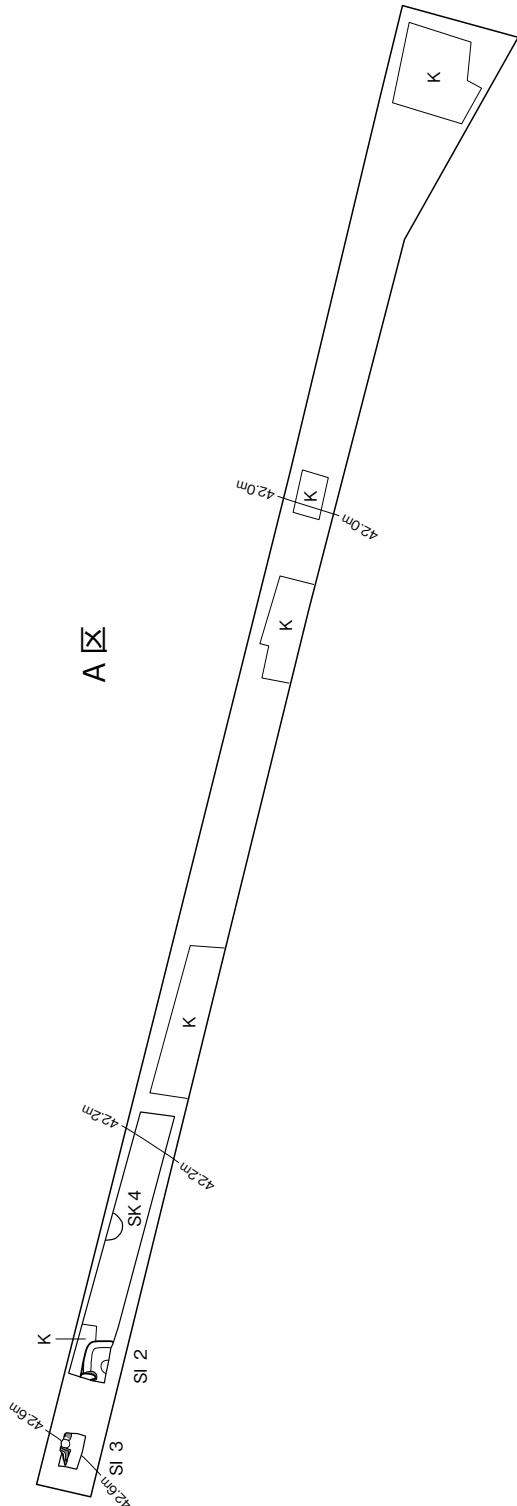


第2図 橋爪遺跡調査区設定図（笠間市都市計画図 2,500 分の 1）



— G2a1

— G3a1

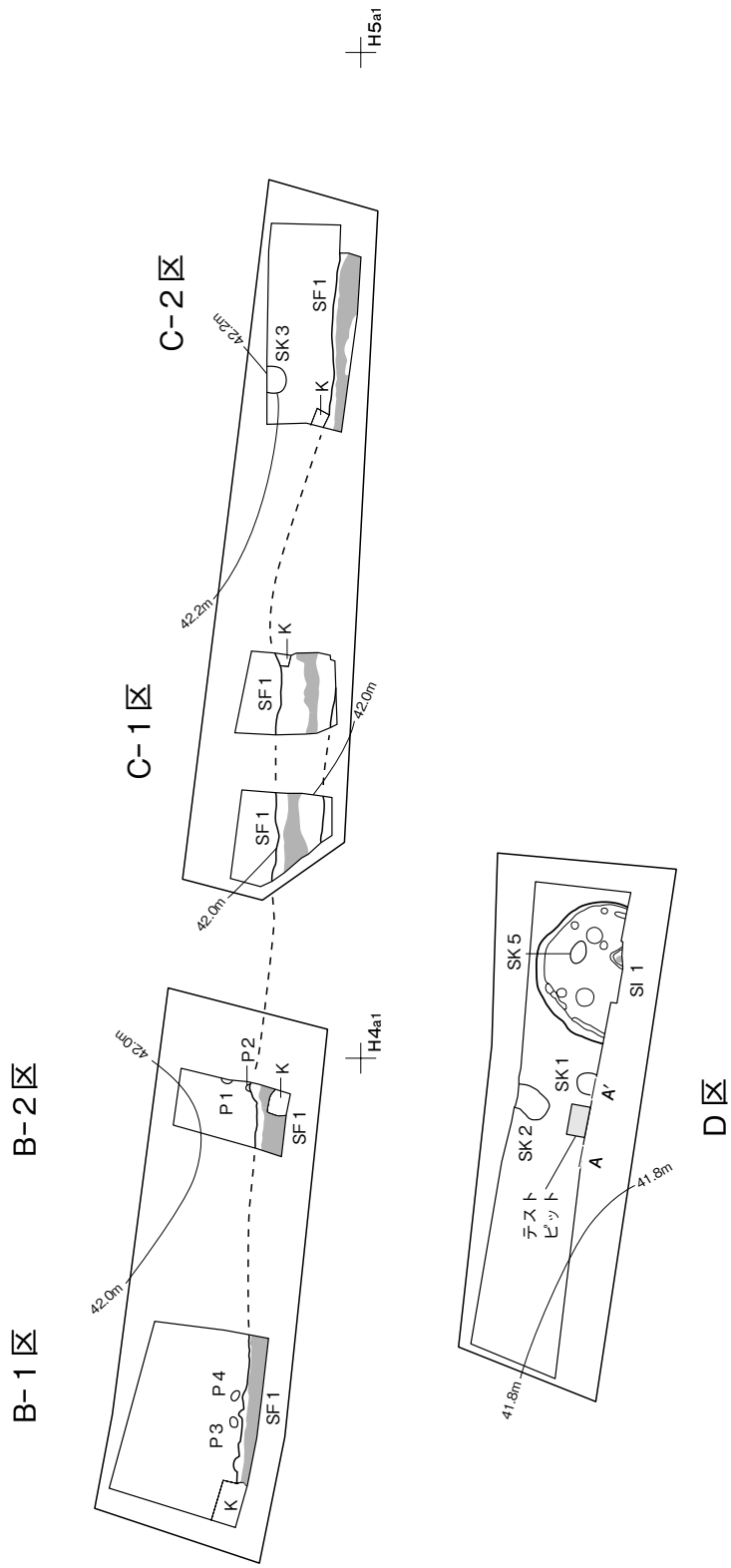
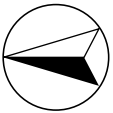


— H2a1

— H3a1

第3図 橋爪遺跡遺構全体図(1)





第4図 橋爪遺跡遺構全体図(2)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

橋爪遺跡は、笠間市の東部に位置し、濁沼川左岸の標高約41～42mの台地上に立地している。調査面積は524㎡で、調査前の現況は畑・宅地である。

調査の結果、竪穴建物跡3棟（縄文時代1・奈良・平安時代2）、道路跡1条（中世）、土坑5基（時期不明）、ピット4基（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に10箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢、ミニチュア）、土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・蓋）、灰釉陶器（皿）、石器（石鏃・石皿・磨石・敲石・砥石）、金属製品（鋤先）、銭貨などである。

第2節 基本層序

調査区中央部の台地上の平坦面（IV H 3c0区）にテストピットを設定し、基本層序（第5図）の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する表土及び攪乱層である。層厚は20～40cmである。

第2層は、暗褐色を呈するローム漸移層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は8～30cmである。

第3層は、黄褐色を呈するソフトローム層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は8～30cmである。

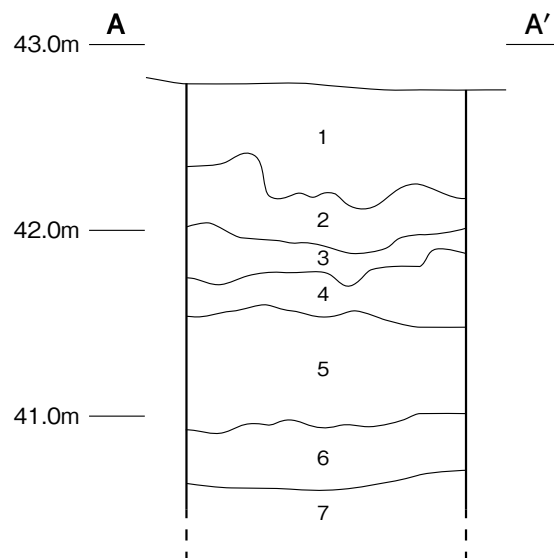
第4層は、暗褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに強く、層厚は14～26cmである。

第5層は、にぶい褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は38～48cmである。

第6層は、黄褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに強く、鹿沼軽石層を含み、層厚は28～36cmである。

第7層は、黄褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに強く、下層は末掘であるため、層厚は不明である。

遺構は、第3層の上面で確認した。



第5図 基本土層図（遺構全体図(2)参照）

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡 (第6・7図 第2・3表 PL 1・3・4)

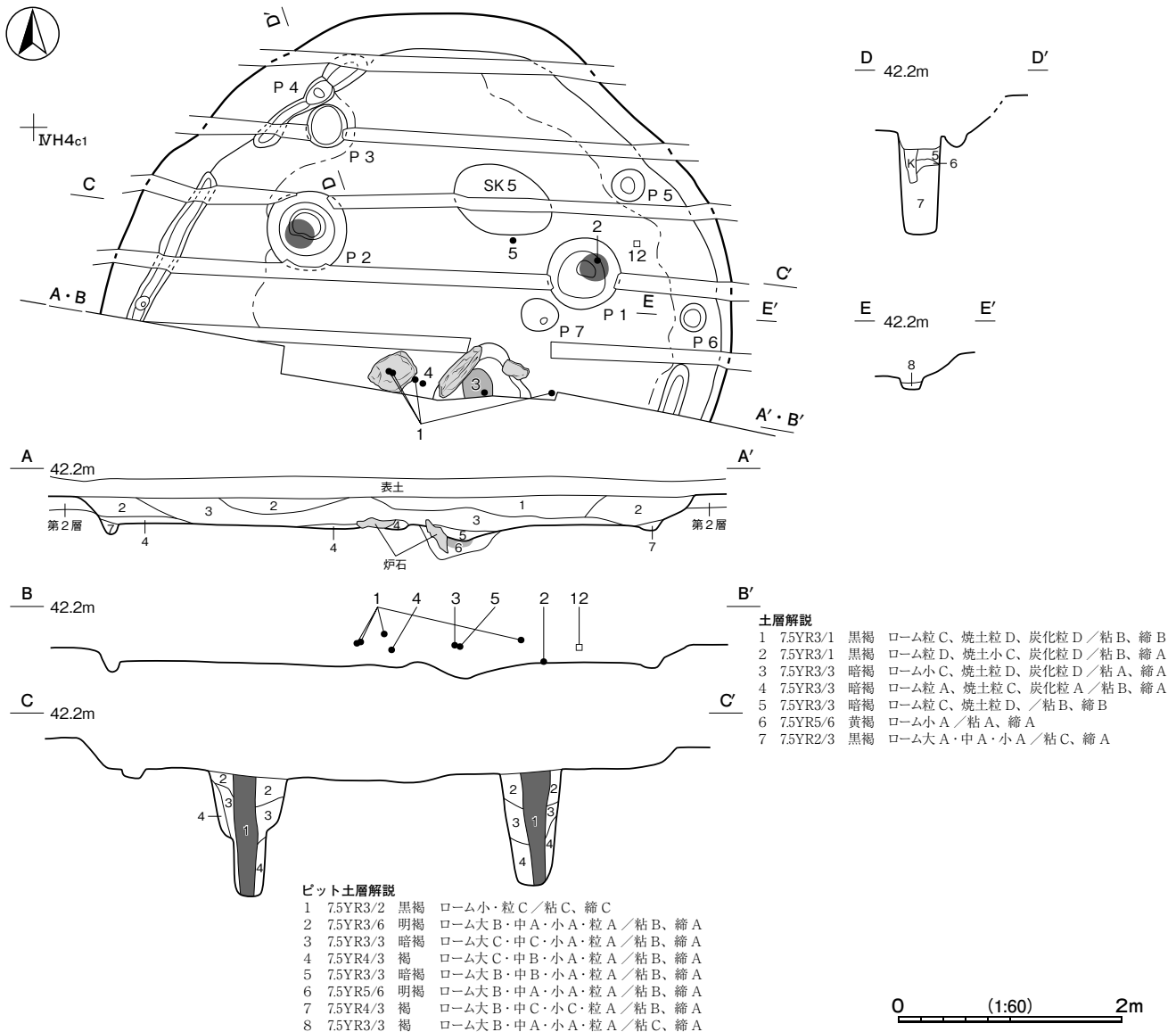
位置 調査D区東部のIVH4c1区、標高42mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5号土坑に掘り込まれている。

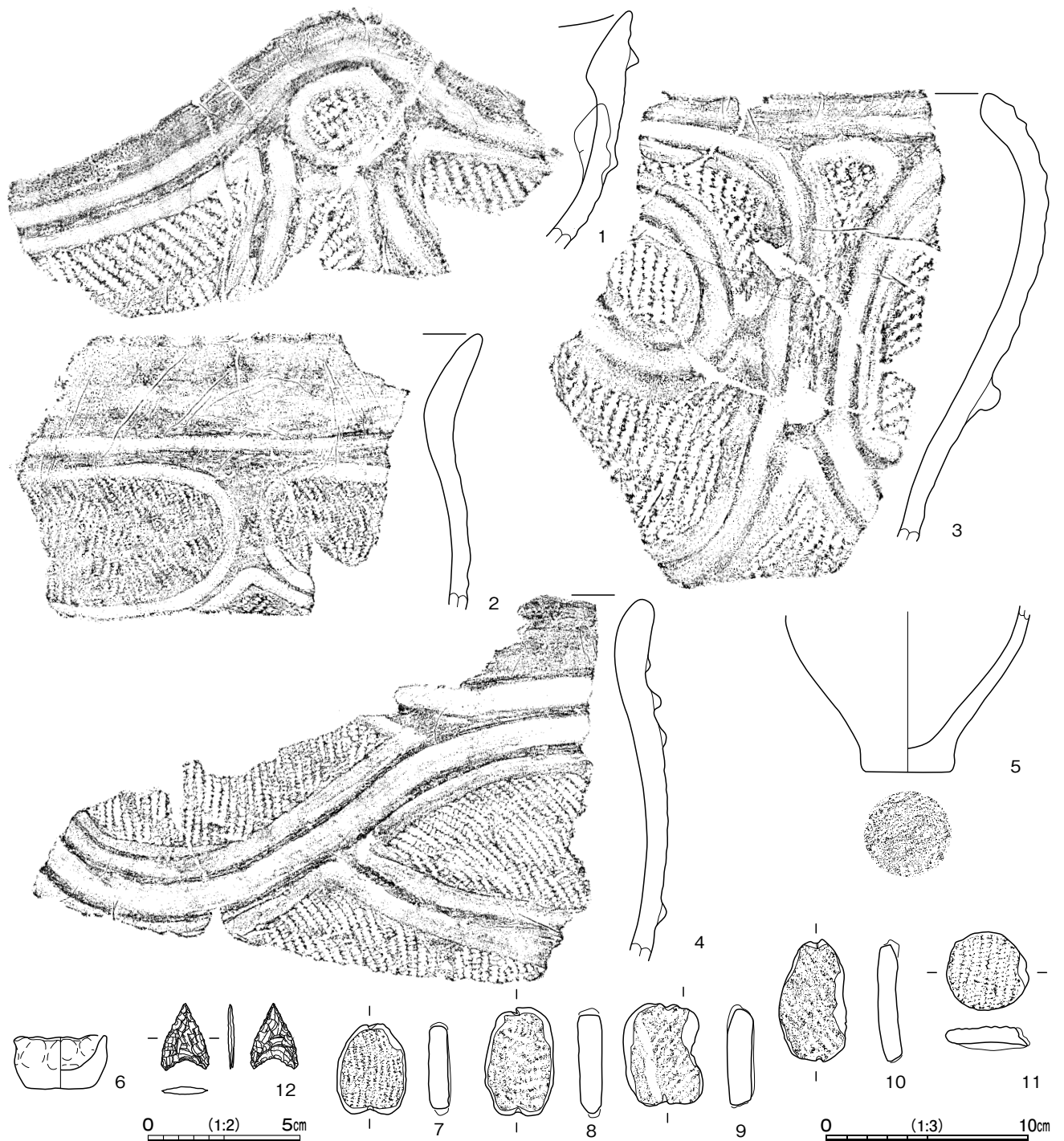
規模と形状 南部は調査区域外のため、確認できた規模は東西径5.51m、南北径3.45mである。主軸方向がN-82°-Wの楕円形と推定できる。壁高は15~27cmで、緩やかに外傾している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化している。壁溝が北西および南東部に巡っている。

炉 石囲い炉で、中央部の東寄りに付設されている。南部は調査区域外のため、確認できた規模は長径87cm、短径45cmの不整楕円形と推定できる。炉は床を最大で27cm掘りくぼめ、ロームブロックを含む第6層を埋土し、炉床を構築している。原位置を留めている炉石は2点のみで、残り8点は炉の周辺部から出土しており、炉石の抜き取りや炉の破壊が考えられる。



第6図 第1号竪穴建物跡実測図



第7図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

ピット 7か所。P1・P2は、径64～70cm、深さ103～107cmで、規模や配置から支柱穴であり、底面で柱のあたりを確認した。P3～P7は、径16～39cm、深さ7～89cmで、補助的な柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから人為堆積である。第5層は炉の覆土、第7層は壁溝の埋土である。

遺物出土状況 縄文土器1130点（深鉢1129、ミニチュア1）、土製品5点（土器片円盤1、土器片錘4）、石器8点（石鏃1、石皿5、磨石2）、炉石片11点（雲母片岩）、礫12点が出土している。出土遺物は主に炉の周りの覆土中層から上層にかけて、散乱して出土している。1は覆土上層から出土した破片4点が接合したものである。2はP1寄りの床面から、3・5は覆土上層から、4・12は覆土中層から、6～11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2表 第1号竪穴建物跡ピット一覧（深さ）

番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
深さ (cm)	103	107	89	7	17	11	33

第3表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[40.8]	(11.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	RL 縄文施文後隆起線脇なぞり	覆土上層	5% PL 3
2	縄文土器	深鉢	[34.0]	(13.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明褐	普通	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 口縁部ナデ	床面	5% PL 3
3	縄文土器	深鉢	[38.0]	(22.2)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	LR 縄文とRL 縄文の施文後隆起線脇なぞり 隆起線交差部に突起	覆土上層	10% PL 3
4	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	RL 縄文施文後隆起線脇なぞり	覆土中層	5% PL 3
5	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	4.2	長石・石英	明褐	普通	胴部無文 底部網代痕後ナデ	覆土上層	10% PL 3
6	縄文土器	ミニチュア	[3.0]	1.7	2.2	長石・石英	褐灰	普通	内外面指頭ナデ	覆土	40% PL 3

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土器片錘	4.6	3.5	1.0	20.47	長石・石英	黒褐	周縁部研磨 両端に刻み	覆土	PL 4
8	土器片錘	5.4	3.5	1.3	33.79	長石・石英	明黄褐	周縁部研磨 両端に刻み	覆土	PL 4
9	土器片錘	5.2	3.8	1.3	32.80	長石・石英	黒褐	周縁部研磨 両端に刻み	覆土	PL 4
10	土器片錘	6.1	3.3	1.0	24.99	長石・石英	にぶい褐	周縁部研磨 両端に刻み	覆土	PL 4
11	土器片円盤	4.1	3.9	0.9	18.14	長石・石英	にぶい赤褐	周縁部敲打	覆土	PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	石鏃	2.14	1.56	0.26	0.75	チャート	凹基 両面調整	覆土中層	PL 4

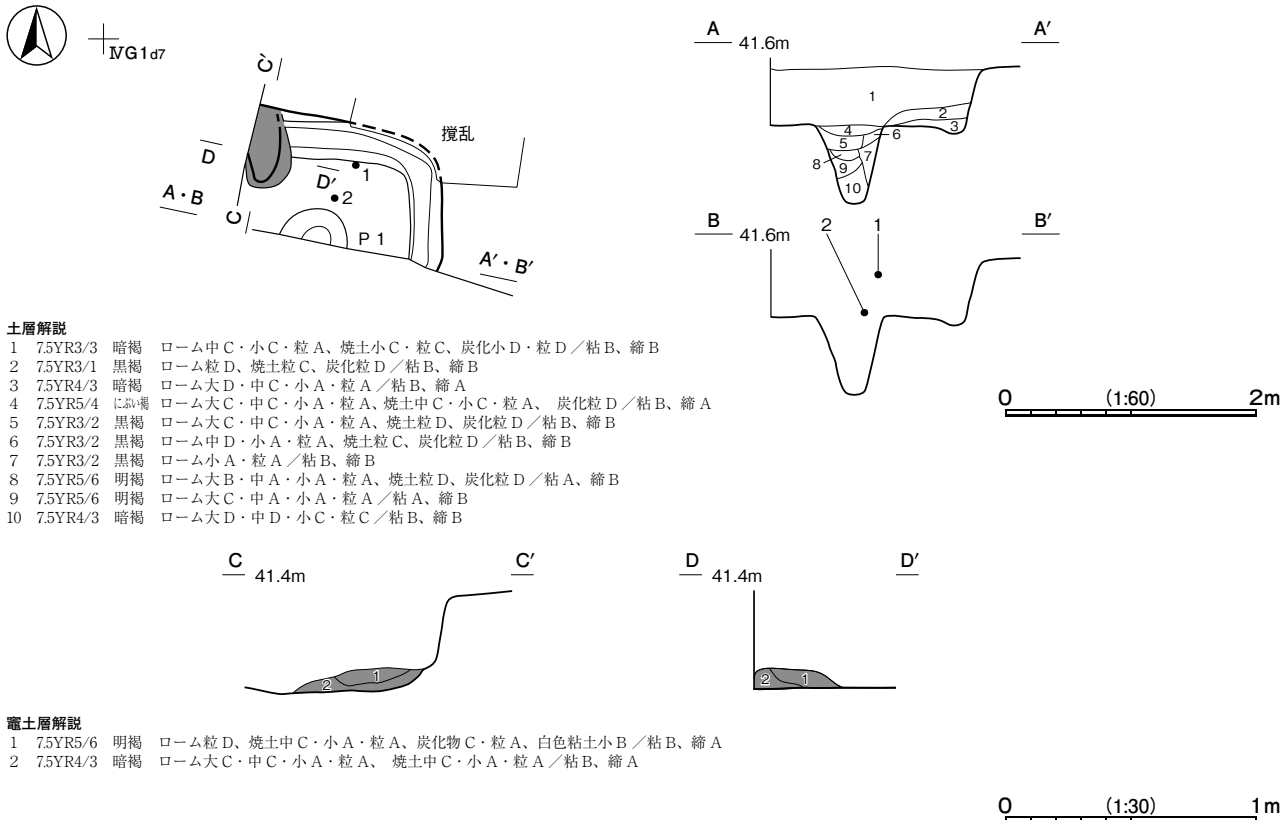
2 奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第2号竪穴建物跡（第8・9図 第4表 PL 2・4）

位置 調査A区西部のIV G 1 d7区、標高41 mの平坦な台地上に位置している。



第8図 第2号竪穴建物跡実測図

規模と形状 北東コーナー部を除く大半は、調査区域外及び調査除外範囲のため、確認できた規模は東西軸 1.62 m、南北軸 1.01 m である。主軸方向が N - 0° の方形または長方形と推定できる。壁高は 33cm ほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化していない。壁溝が巡っている。

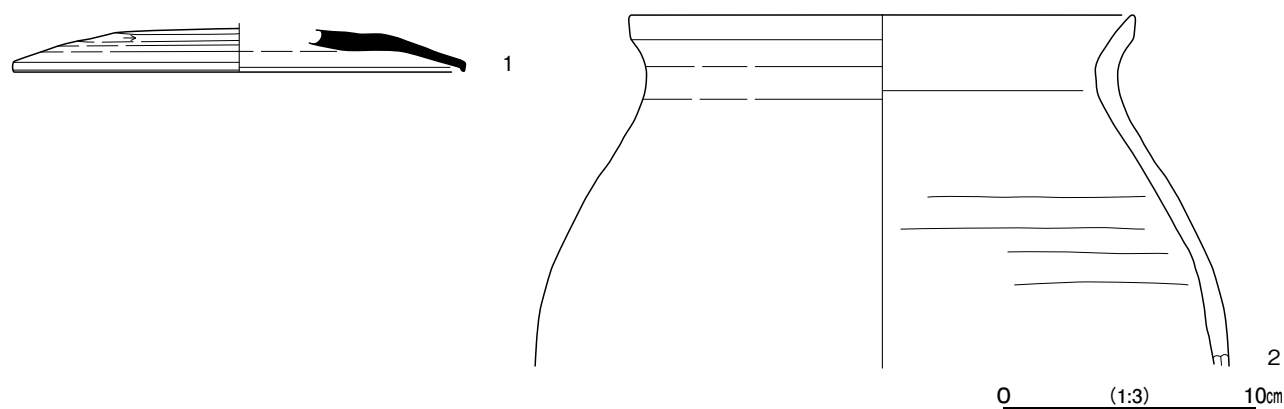
竈 北壁に付設されている。確認できたのは右袖部で、床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックや焼土ブロックを含む第 1・2 層を積み上げて構築している。

ピット P 1 は、径 52cm ほど、深さ 65cm で、規模や配置から支柱穴である。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 72 点（坏 5、甕類 67）、須恵器片 7 点（坏 6、蓋 1）が出土している。土器は主に中層から上層にかけて散乱して出土している。1 は覆土上層から、2 は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 9 図 第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 4 表 第 2 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 9 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[18.0]	[1.7]	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	5% PL 3
2	土師器	甕	[20.0]	(14.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 外面体部ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	10% PL 4

第 3 号竪穴建物跡（第 10 図 第 5 表 PL 3・4）

位置 調査 D 区東部の IV G 1 d6 区、標高 41 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 竈周辺を除く大半が調査区域外のため、確認できた規模は東西軸 1.37 m、南北軸 0.93 m である。主軸方向が N - 14° - E の方形または長方形と推定できる。壁高は 48 ~ 68cm ほどである。

床 ほぼ平坦で、主に竈前方部が硬化している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部に向かって 37cm を確認し、燃焼部幅は 32cm である。竈は地山を最大で 20cm ほど掘りくぼめ、第 11 ~ 13 層で埋土している。袖部は整地面の上に、ロームブロックや粘土粒子を含む第 6 ~ 10 層を積み上げて構築している。火床部の赤変硬化は認められず、煙道部に向かって緩やかに外傾している。

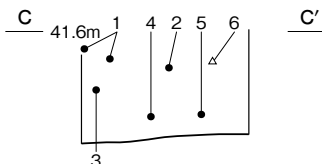
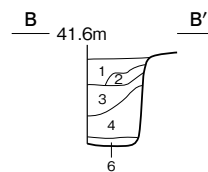
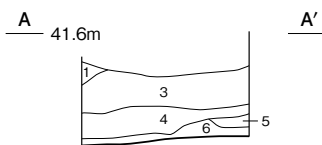
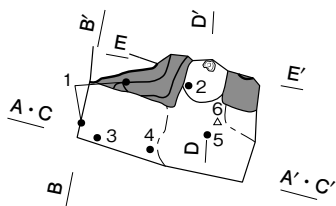
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 214 点（坏 24、高台付坏 5、甕類 185）、須恵器片 38 点（坏 19、高台付坏 2、蓋 4、甕類 11、甑 2）が出土している。1 は左袖部から、2 は竈内から、3 は左袖部寄りの覆土中層から、4・5 は竈前方部の覆土下層から、6 は右袖部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。



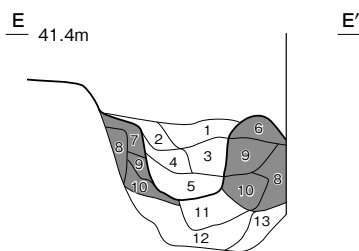
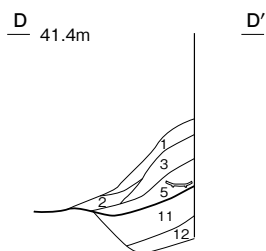
VG1d6



0 (1:60) 2m

土層解説

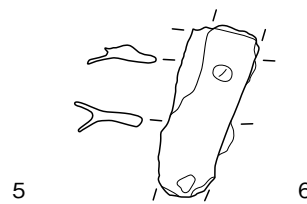
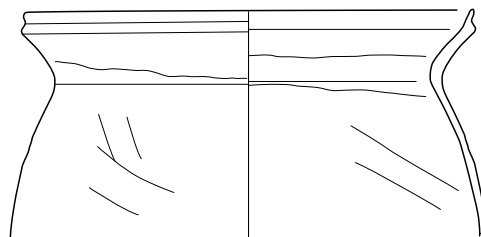
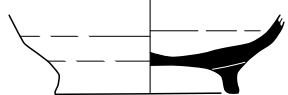
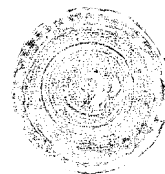
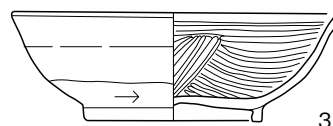
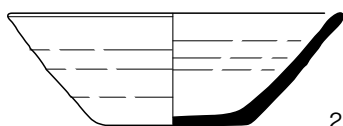
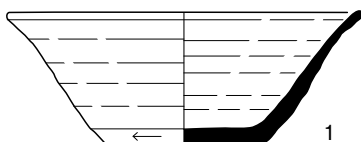
- 1 75YR3/2 黒褐 ローム粒 C、焼土小 C・粒 C、炭化粒 D、山砂大 A・中 A / 粘 B、締 B
- 2 75YR5/6 明褐 ローム粒 D、焼土中 C・小 C・粒 C / 粘 B、締 A
- 3 75YR3/2 黒褐 ローム小 A・粒 A、焼土粒 C、炭化粒 C / 粘 B、締 B
- 4 75YR3/2 黒褐 ローム粒 A、焼土粒 D、炭化粒 D、山砂小 A・中 A / 粘 B、締 A
- 5 75YR3/3 暗褐 ローム中 C・小 C・粒 C / 粘 A、締 A
- 6 75YR3/3 暗褐 ローム大 C・中 C・小 A・粒 A / 粘 A、締 A



0 (1:30) 1m

竈土層解説

- 1 75YR3/2 黒褐 ローム粒 D、焼土粒 A、炭化粒 D / 粘 B、締 B
- 2 10YR8/2 浅黄橙 ローム粒 D、焼土粒 C、炭化粒 D、白色粘土 A、山砂 A / 粘 A、締 B
- 3 75YR3/2 黒褐 ローム粒 D、焼土中 C・粒 A、炭化粒 D、白色粘土 C / 粘 B、締 A
- 4 10YR8/3 浅黄橙 ローム粒 D、白色粘土 B / 粘 A、締 B
- 5 75YR7/6 橙 ローム粒 D、焼土大 B・中 A・小 A・粒 A / 粘 B、締 A
- 6 10YR8/3 浅黄橙 ローム粒 D、焼土粒 D / 粘 C、締 A
- 7 75YR3/2 黒褐 ローム小 A・粒 A、焼土粒 C、炭化粒 C / 粘 B、締 B
- 8 75YR3/2 黒褐 ローム粒 A、焼土粒 D、炭化粒 D、山砂小 A・中 A / 粘 B、締 A
- 9 75YR3/3 黒褐 ローム中 C・小 C・粒 C / 粘 A、締 A
- 10 75YR3/3 暗褐 ローム中 C・小 A・粒 A / 粘 A、締 A
- 11 75YR5/6 明褐 ローム大 D・中 B・小 C・粒 C / 粘 A、締 A
- 12 75YR4/3 暗褐 ローム大 D・中 D・小 C・粒 C / 粘 B、締 B
- 13 75YR3/3 暗褐 ローム中 B・小 C・粒 C / 粘 B、締 B



0 (1:3) 10cm

第 10 図 第 3 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第5表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.0	5.2	6.2	長石・石英・黒色粒子・礫	褐灰	普通	口縁部・体部内外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土上層	70% PL 3
2	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[6.0]	長石・石英・針状物質	灰黄褐	普通	口縁部・体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土上層	30%ヘラ記号[V] 木葉下窯跡 PL 3
3	土師器	高台付坏	12.9	4.3	7.0	長石・石英・赤色	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中層	80% PL 3
4	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	7.4	長石・石英・赤色	灰黄褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土下層	30%ヘラ記号[V] PL 3
5	土師器	甕	[17.8]	(9.0)	-	長石・石英・赤色	褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	覆土下層	5% PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	鋤先	(6.4)	5.10	0.2~0.3	(23.18)	鉄	断面形Y字状	覆土上層	PL 4

第6表 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)					主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
2	IV G 1 d7	[N - 0°]	[長方形]	(1.01 × 1.62)	33	平坦	一部	1	-	-	北壁	-	人為	土師器 須恵器	8世紀後葉		
3	IV G 1 d6	[N - 14° - E]	[長方形]	(0.93 × 1.37)	48 ~ 68	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器 須恵器 鋤先	9世紀中葉		

3 鎌倉時代の遺構と遺物

道路跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

道路跡

第1号道路跡 (第11・12図・第7表・PL 1・2・4)

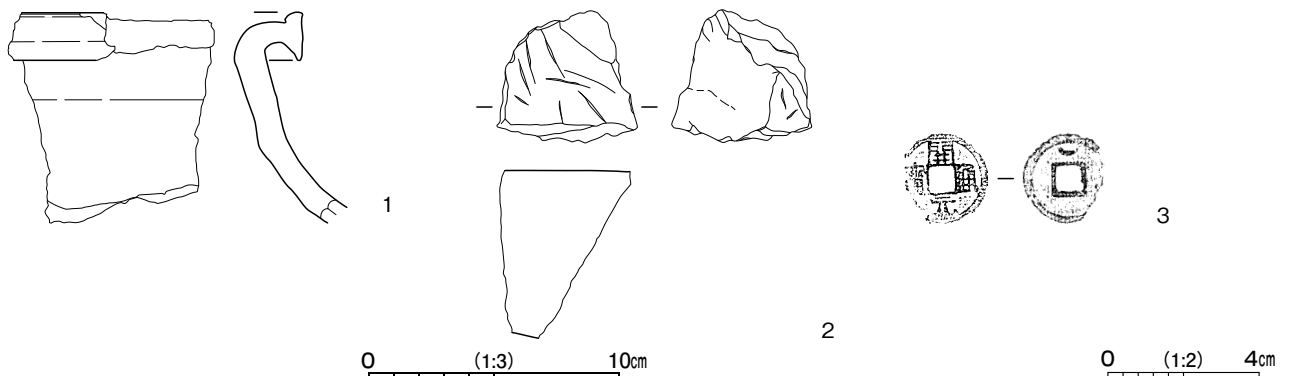
位置 調査B-1区のIV J 3 i6区~IV H 4 a8区にかけて、標高42mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 ほぼ東西方向(N-83°-W)へ直線状に延びている。確認できた規模は長さ4.85m、上幅2.06~2.22m、下幅0.10~1.02mである。掘方の深さは20~65cmで、断面形は、逆台形を呈している。

覆土 10層に分層できる。第1~10層はロームブロックや焼土粒子・炭化粒子などを混入した掘方埋土である。路面である第1層上面はよく踏み固められている。

遺物出土状況 陶器1点(甕)、石器2点(砥石)、銭貨1点が出土している。ほかに混入した縄文土器片14点、土師器片5点(甕類)、須恵器片10点(坏3、瓶1、甕類6)、石器2点(磨石)、礫8点が出土している。1~3は、C-2区の掘方埋土からそれぞれ出土している。

所見 構築時期は、出土した1から13世紀末以降と考えられる。また、江戸時代の遺物が全く出土していないことから、廃絶時期は安土桃山時代以前と推定される。



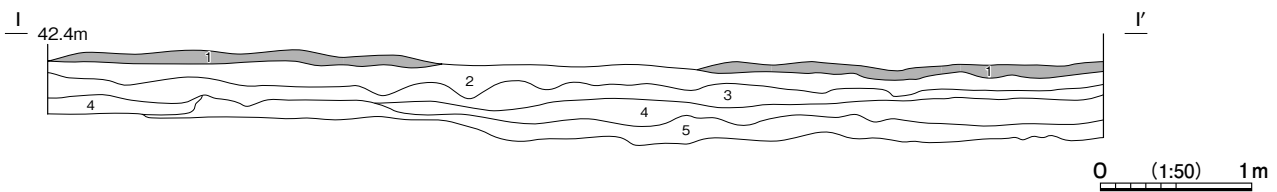
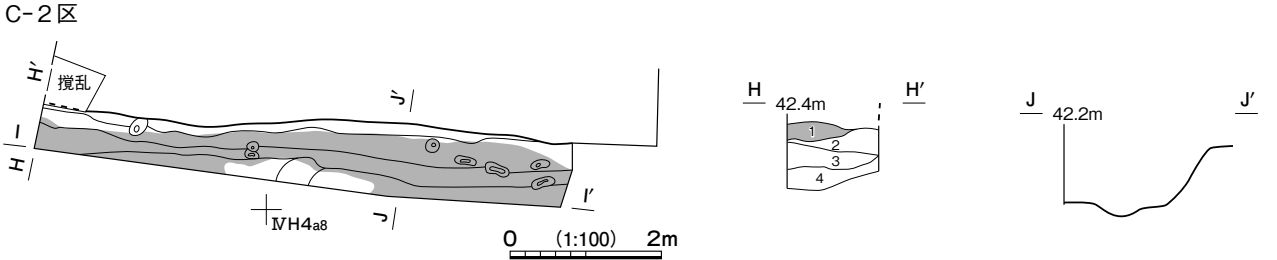
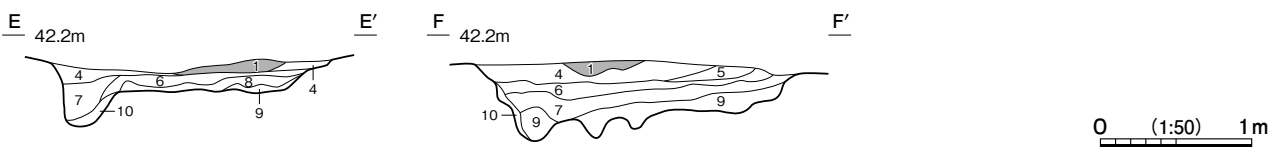
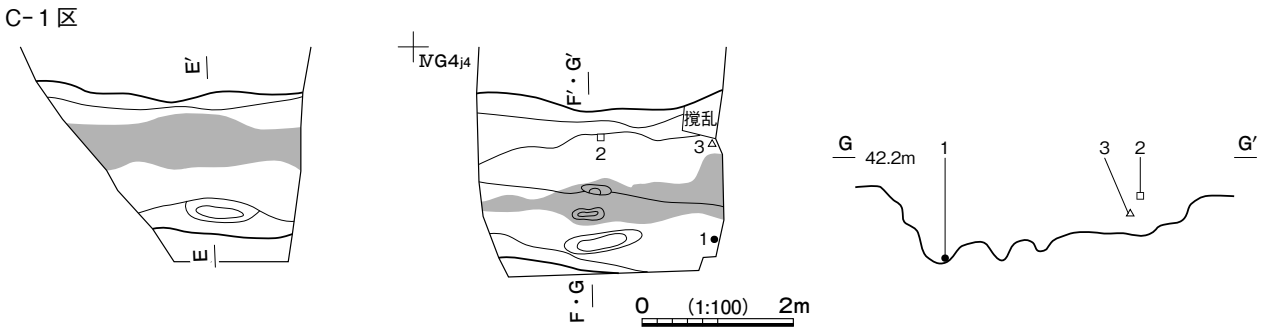
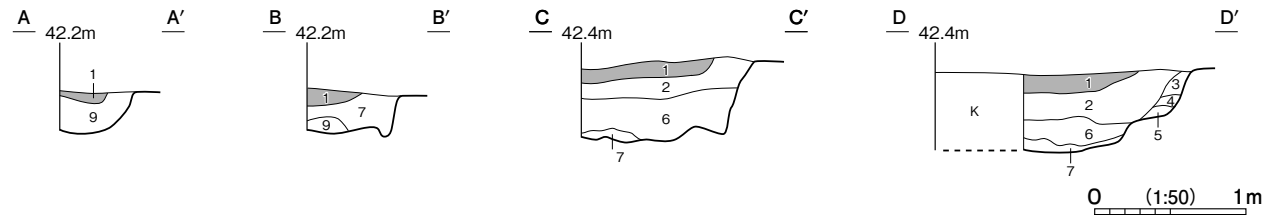
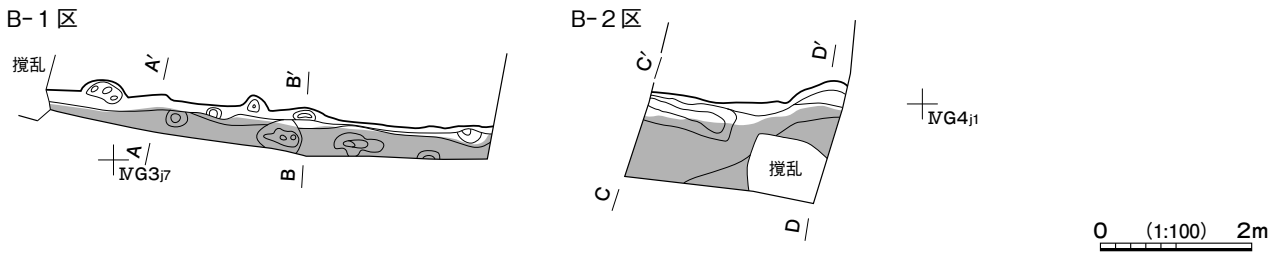
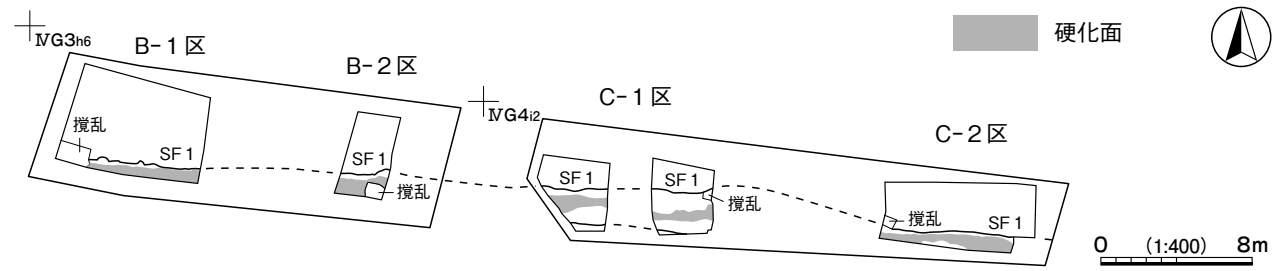
第11図 第1号道路跡出土遺物実測図

第7表 第1号道路跡出土遺物一覧 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(8.9)	-	長石・石英	にぶい赤褐	口縁部外・内面ナデ 折り返し部隙間	自然釉	常滑	掘方埋土	5% 6形式 PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	砥石	(5.3)	(5.6)	6.6	(178.21)	砂岩	砥面2面	掘方埋土	

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
3	開元通寶	2.45	0.66	0.11	(1.53)	青銅	621年	背上月	掘方埋土	PL 4



B-1・2区、C-1・2区土層解説

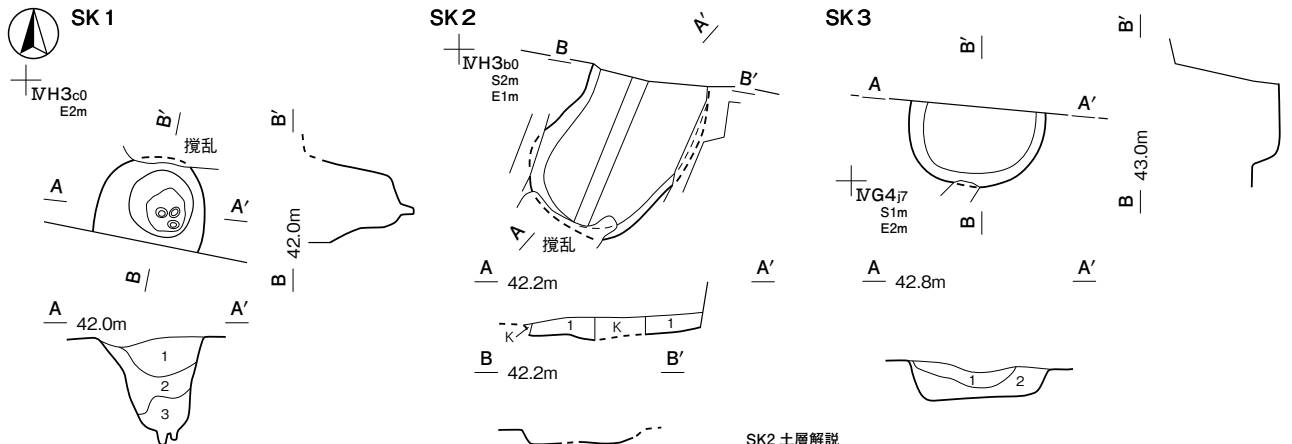
- | | | | | | | | |
|---|----------|----|-----------------------------|----|----------|----|----------------------|
| 1 | 7.5YR2/1 | 黒 | ローム小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D/粘B、締A | 6 | 7.5YR2/1 | 黒 | ローム粒D/粘B、締A |
| 2 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D/粘B、締A | 7 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム小C・粒C/粘B、締B |
| 3 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム中B・小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D/粘B、締A | 8 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム中C・小A・粒A/粘B、締A |
| 4 | 7.5YR2/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C/粘C、締B | 9 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム大D・中C・小A・粒A/粘C、締C |
| 5 | 7.5YR5/6 | 明褐 | ローム大B・中A・小A・粒A/粘C、締A | 10 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム小A・粒D/粘B、締B |

第12図 第1号道路跡実測図

4 その他の時代の遺構と遺物

時代や時期を明確にできなかった土坑5基およびピット4基と遺構外出土遺物について記述する。

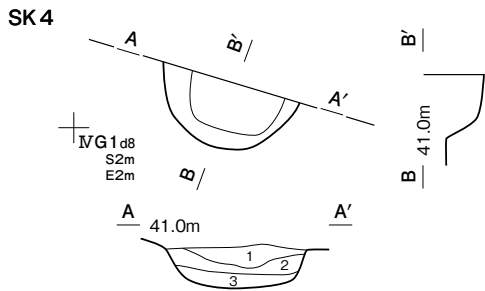
(1) 土坑



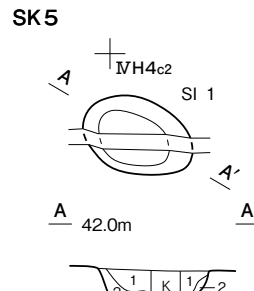
SK1 土層解説
 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム大C・中C・小C・粒C/粘A、締A
 2 7.5YR5/6 黄褐 ローム粒D、黒色粒子D/粘A、締A
 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム小C、焼土粒D、炭化粒D/粘A、締A

SK2 土層解説
 1 7.5YR4/3 黒褐 ローム大C・中C・小C・粒A、焼土粒D/粘B、締A

SK3 土層解説
 1 7.5YR3/3 暗褐 ローム小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D/粘B、締B
 2 7.5YR4/3 褐 ローム小C・中A・粒A/粘B、締B

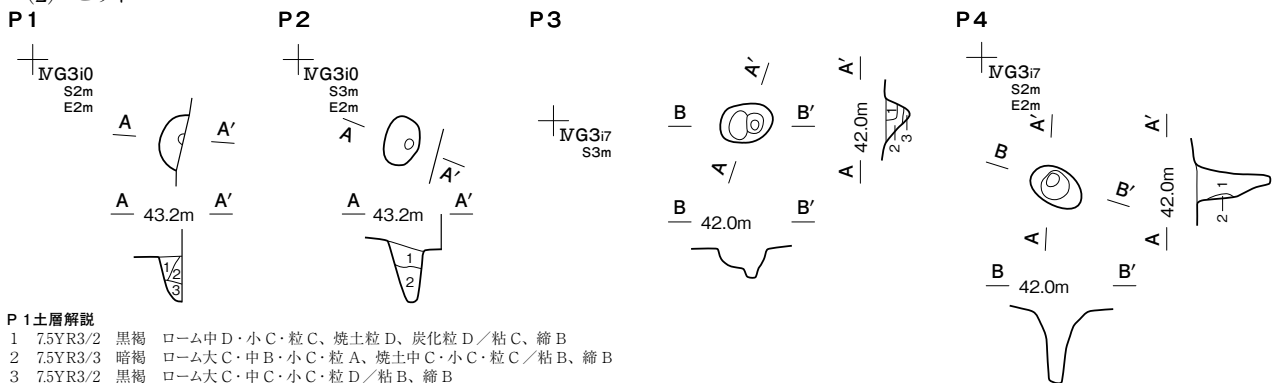


SK4 土層解説
 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム大C・中A・小A・粒A/粘C、締A
 2 7.5YR5/6 明褐 ローム大B・中A・小A・粒A/粘B、締A
 3 7.5YR5/8 明褐 ローム大A・中A・小A・粒A/粘B、締A



SK5 土層解説
 1 7.5YR2/2 黒褐 ローム中D・小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D/粘B、締A
 2 7.5YR5/6 明褐 ローム大B・中A・小A・粒A/粘B締A

(2) ピット



P 1 土層解説
 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘C、締B
 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム大C・中B・小C・粒A、焼土中C・小C・粒C/粘B、締B
 3 7.5YR3/2 黒褐 ローム大C・中C・小C・粒D/粘B、締B

P 2 土層解説
 1 7.5YR3/2 暗褐 ローム中C・小C・粒C/粘B、締A
 2 7.5YR5/6 明褐 ローム大C・中A・小A・粒A/粘A、締A

P 3 土層解説
 1 7.5YR2/2 黒褐 ローム粒D、炭化粒C/粘B、締B
 2 7.5YR3/4 暗褐 ローム粒C、炭化粒C/粘B、締B
 3 7.5YR2/2 黒褐 ローム粒D、炭化粒C/粘B、締B

P 4 土層解説
 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム小C・粒C/粘B、締A
 2 7.5YR5/6 明褐 ローム大C・中A・小A・粒A/粘B、締B

0 (1:60) 1m

第13図 土坑およびピット実測図

第8表 土坑一覧

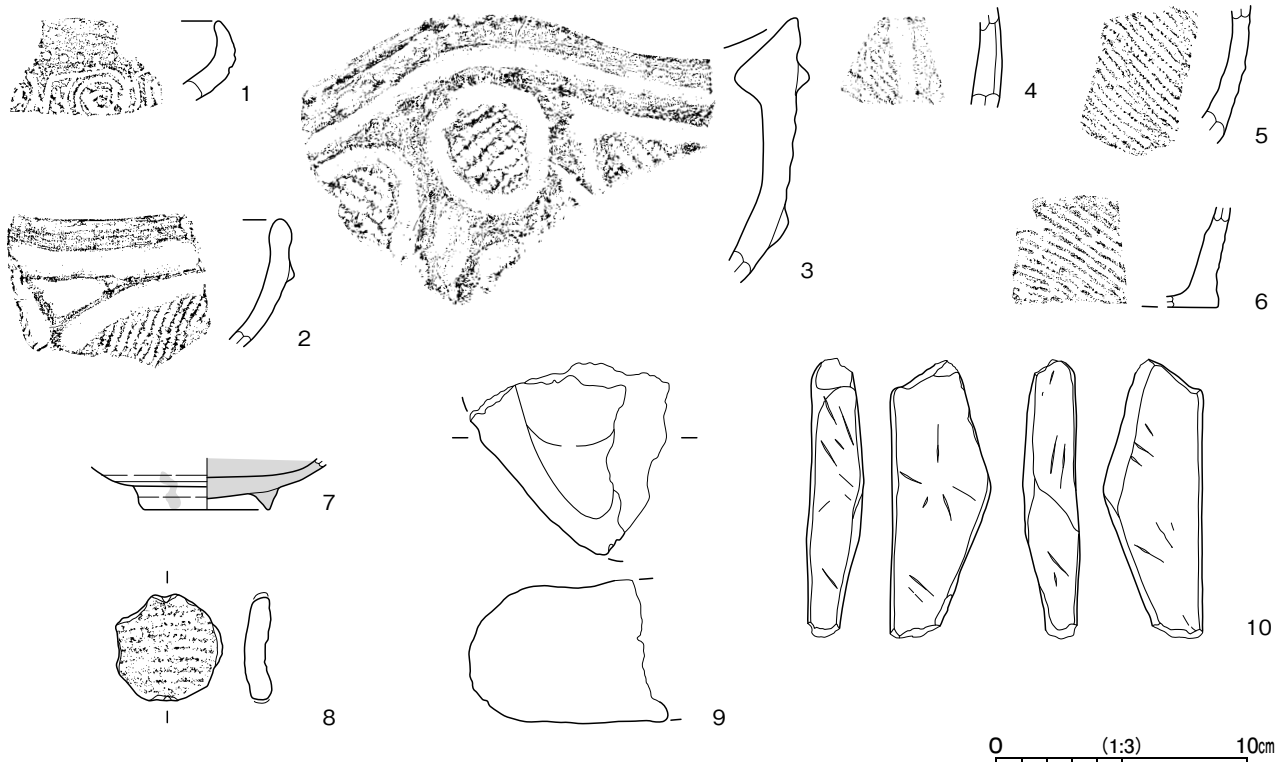
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	IVH3c0	N-6°-E	[円形・楕円形]	0.43 × (0.33)	46	垂直	凹凸	人為	—	
2	IVH3b0	N-22°-E	[楕円形]	(0.65) × 0.54	14	垂直	平坦	自然	—	
3	IVG4i8	N-5°-W	[楕円形]	(1.10) × (0.63)	82	外傾	平坦	自然	—	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4	IVG1d8	N-13°-W	(円形)	(1.10) × (0.42)	140	外傾	U字状	人為	—	
5	IVH4c2	N-58°-W	円形	10.0 × 9.60	19	垂直	平坦	人為	縄文土器 土師器	

第9表 ピット一覽

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	IVG3i0	N-6°-W	[円形・楕円形]	[0.21] × (0.90)	22	外傾	U字状	人為	—	
2	IVG3i0	N-10°-E	(楕円形)	0.20 × 0.13	20	外傾	U字状	自然	—	
3	IVG3h7	N-3°-W	(円形)	0.41 × 0.30	22	外傾	U字状	人為	磨石	
4	IVG3h7	N-14°-W	(不定形)	0.51 × 0.43	58	垂直	平坦	人為	—	

(3) 遺構外出土遺物



第14図 遺構外出土遺物実測図

第10表 遺構外出土遺物一覽 (第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄橙	普通	口縁部刺突文 RL 単節縄文施文後半截竹管による渦巻文	D区	PL 4
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり	D区	PL 4
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	RL、LR 縄文の施文後隆起線脇なぞり 口唇部内面肥厚	D区	PL 4
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	L 無節 縄文施文後隆起線脇なぞり	A区	PL 4
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	RL 縄文	A区	PL 4
6	弥生土器	広口壺	-	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面附加条一種(附加1条) 内面調整なし	B区	PL 4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
7	灰釉陶器	皿	-	(2.0)	5.0	長石・石英	灰黄 精緻	内面施釉 漬け掛け 底部内面重ね焼き痕 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	施釉	猿投窯	A区	30% PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	土器片錘	4.2	4.2	0.8	17.46	長石・石英・白色粒子	橙	深鉢胴部片再利用	A区	PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	石皿	(7.6)	(5.7)	5.6	324.77	安山岩	表面 磨り面くぼみ	D区	PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	砥石	(11.0)	4.0	2.3	(136.23)	砂岩	砥面5面	D区	PL 4

第4節 総括

1 はじめに

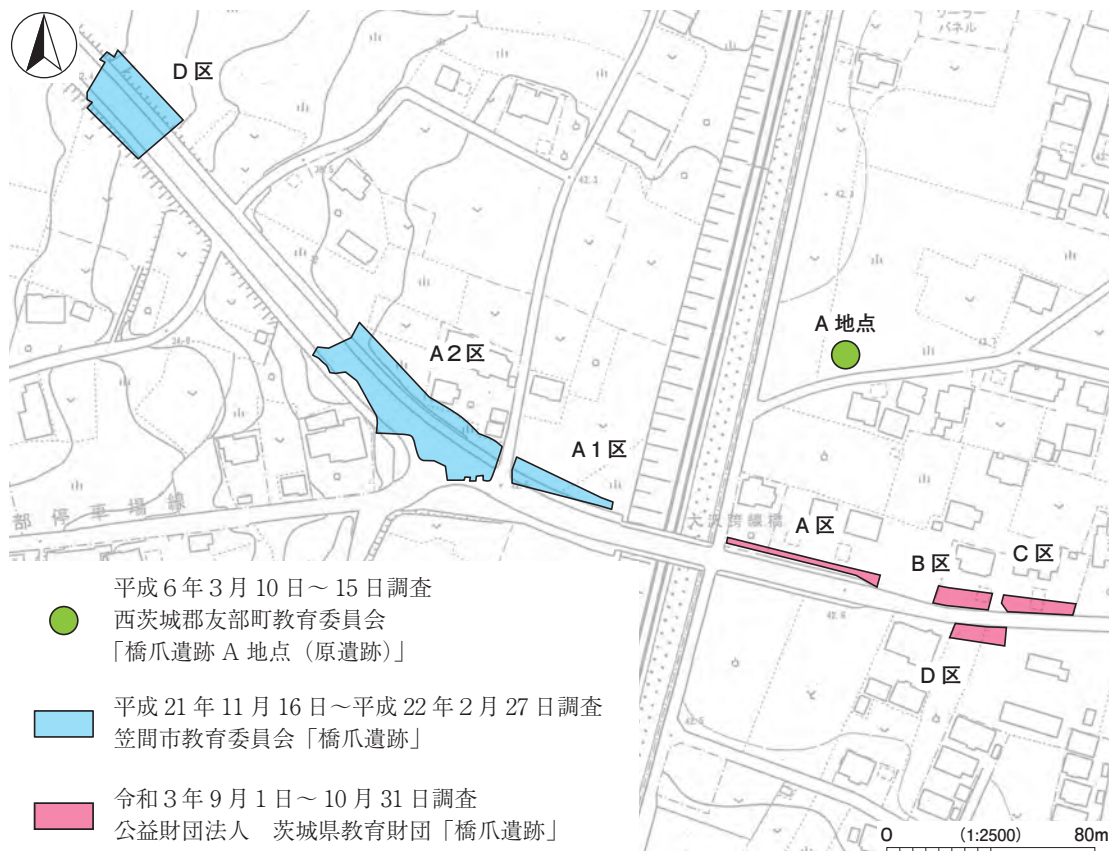
今回の調査で、縄文時代の竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代の竪穴建物跡2棟、鎌倉時代の道路跡1条、時期不明の土坑5基およびピット4基を確認した。

当遺跡の調査は、平成6年に友部町教育委員会で報告された「橋爪遺跡 A 地点（原遺跡）」¹⁾と、平成22年に笠間市教育委員会で報告された「橋爪遺跡」²⁾において、詳細な分析がなされている。

そこで、今回の調査で確認した遺構や遺物について、今までの調査成果とともに概観し、時期ごとに若干の考察を加えてまとめたい。

2 縄文時代

主な遺物は中期の土器で、磨消手法が盛行し、胴部懸垂文の幅も広がっていることと、口縁部文様の渦巻文が退化し、楕円区画や長方形区画が見られることから加曾利 E Ⅲ式土器に該当する。第1号竪穴建物跡は、石囲い炉が中央部やや東寄りに付設されており、これまでの調査と同様の遺構・遺物が確認できた。橋爪遺跡 A 地点では、竪穴建物跡から「石組炉」1基が確認されている。この竪穴建物跡からは、口縁部無文帯でその下位に微隆起線文がある土器片と土器片円盤をはじめ磨石や石皿などが出土³⁾しており、今回の調査で確認した第1号竪穴建物跡と同時期とみられる。また、笠間市教育委員会が報告した『橋爪遺跡』では、竪穴建物跡3棟、土坑153基が確認され、縄文時代中期前葉から後葉の土器が出土しており、特に A 2 区の加曾利 E I～Ⅲ式土器が多量に出土している。袋状土坑からは、阿玉台Ⅳ式や加曾利 E I 式の土器片も出土している。報告書のまとめにおいて、これらの



第15図 橋爪遺跡調査位置図

土器片はⅠ期からⅦ期に分類されている。その中でⅤ期は加曾利 E Ⅱ式と E Ⅲ式期の土器が見られ、土器の胴部の沈線間の幅が狭く、磨り消しがはっきりしていないもの、Ⅳ期は胴部の沈線間の幅が広く、加曾利 E Ⅲ式の土器が主体的にみられるものと述べられている⁴⁾。今回の調査で出土した遺構や遺物は、これまでの調査と同じ加曾利 E Ⅱ・Ⅲ式期と考えられることから、当該期の集落が過去の調査地点から南東方向にも広がっていることが判明した。

3 奈良・平安時代

笠間市教育委員会で報告された『橋爪遺跡』では、確認した奈良・平安時代の竪穴建物跡 17 棟を 3 期に分類している⁵⁾。Ⅰ期は 8 世紀前葉～中葉で 2 棟、Ⅱ期は 8 世紀中葉～9 世紀前葉で 12 棟、Ⅲ期は 9 世紀前葉～10 世紀前葉で 3 棟である。今回の調査で確認した第 2 号竪穴建物跡は 8 世紀後葉、第 3 号竪穴建物跡が 9 世紀中葉であり、集落変遷のⅡ・Ⅲ期に当てはまる。今後の調査によって、より詳細な集落変遷が明らかになることを期待したい。

4 中世

道路跡が確認されたのは、当遺跡の調査で初めてである。道路跡の掘方埋土から常滑の陶器片や銭貨（開元通寶）が出土している。北西約 1400 m に所在している新善光寺跡（山尾城）との関係は不明である。

5 おわりに

以上、今までの調査成果をもとに集落跡や道路跡について概観してきた。限られた範囲の調査であったが、縄文時代中期以降における人々の営みの痕跡を確認することができた。過去の調査では 10 世紀中葉以降の遺構を確認していない。今回の調査で、中世の遺構を確認したことは、成果の 1 つと言える。

註

- 1) 西茨城郡友部町教育委員会『橋爪遺跡 A 地点（原遺跡）』友部町埋蔵文化財調査報告 1994 年 4 月
- 2) テイケイトレード株式会社『橋爪遺跡』笠間市教育委員会 2010 年 9 月
- 3) 註 1 に同じ
- 4) 註 2 に同じ
- 5) 註 2 に同じ

参考文献

- ・海老原郁夫「北関東加曾利 E 式土器様式」『縄文土器大観 3 中期Ⅱ』小林達夫 小学館
- ・稲田義弘『新善光寺跡 穴戸城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第 256 集 2006 年 3 月
- ・前島直人『穴戸城跡 2 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』茨城県教育財団文化財調査報告 第 342 集 2011 年 3 月
- ・財団法人茨城県教育財団 奈良・平安時代研究班 1992「8 世紀～9 世紀前半の器種構成について」『研究ノート創刊号』財団法人茨城県教育財団
- ・財団法人茨城県教育財団 奈良・平安時代研究班 1993「9 世紀後半の器種構成とその割合について」『研究ノート 2 号』財団法人茨城県教育財団

写 真 图 版



調査全景 A区 (西方向から)



第1号道路跡確認状況 B-1区



調査全景 C-2区 (西方向から)



調査全景 D区 (東方向から)



第1号竪穴建物跡 遺物出土状況



第1号竪穴建物跡 炉



第1号竪穴建物跡



第1号竪穴建物跡 柱穴 (P1)



第2号竖穴建物跡 遺物出土状況



第2号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡 遺物出土状況



第3号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第1号道路跡 遺物出土状況 (1)



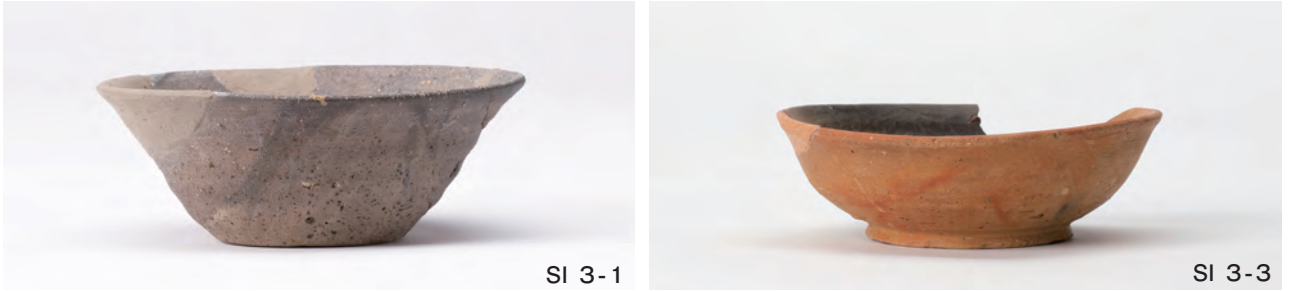
第1号道路跡 遺物出土状況 (2)



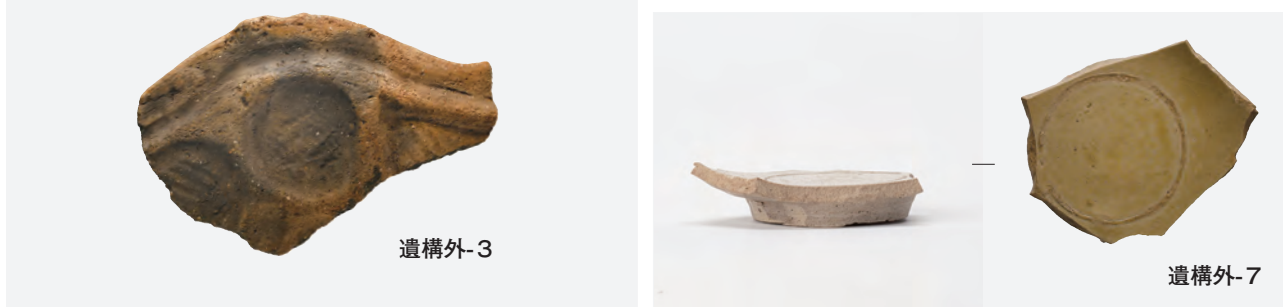
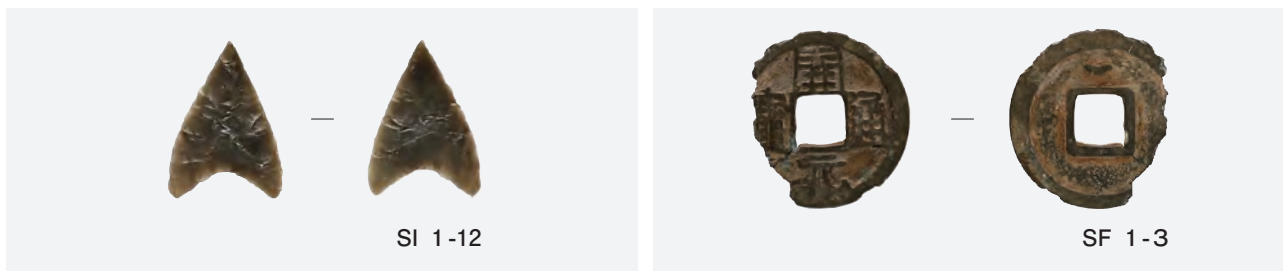
第1号道路跡掘方 B区



第1号道路跡掘方 C-1区東



第1・2・3号竖穴建物跡出土土器



第1・2・3号竖穴建物跡出土遺物、第1号道路跡出土遺物、遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	はしづめいせき							
書名	橋爪遺跡							
副書名	一般県道平友部停車場線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第466集							
著者名	野田良直							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2023(令和5)年1月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
橋爪遺跡	茨城県笠間市橋爪 911番地の5ほか	08321 - 046	36度 20分 07秒	140度 17分 50秒	41 ~ 42 m	20210901 ~ 20211031	524 m ²	一般県道平友部 停車場線道路改 良事業に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
橋爪遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 1棟		深鉢、ミニチュア、土製品(土器片円盤・土器片錘)、石器(石鏃・石皿・磨石)			
		奈良 平安	竪穴建物跡 2棟		土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・蓋・高台付坏・高台付皿・高台付椀・甕)、石器(砥石)、金属製品(鋤先)			
		鎌倉	道路跡 1条		灰釉陶器(皿)、陶器(甕) 銭貨			
	その他	時期不明	土坑 ピット 5基 4基		縄文土器(深鉢)、土師器(坏・甕)、須恵器(坏)			
要約	縄文時代の石囲い炉をもつ竪穴建物跡を確認した。出土土器は、中期後葉が中心である。奈良・平安時代の竪穴建物跡からは、8世紀後葉から9世紀中葉の遺物が出土した。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2022
	図版作成	Adobe Illustrator 2022
	写真調整	Adobe Photoshop 2022
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2022 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第466集

笠間市

橋爪遺跡

一般県道平友部停車場線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和5（2023）年1月26日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社

〒319-1112 那珂郡東海村村松平原3115-3

TEL 029-282-0370